



Photostud

THE FUJI STAKES

第27回 富士ステークス (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 59,000,000円 24,000,000円 15,000,000円 8,900,000円 5,900,000円
付加賞 1,190,000円 340,000円 170,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55^{kg}・4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.10.21以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2023.10.20以前のG I競走(牝馬限
定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

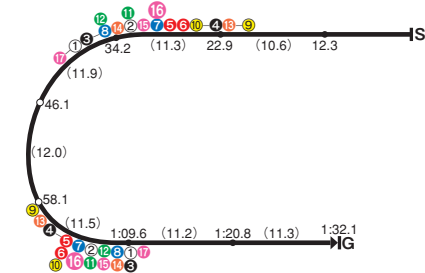
2024.10.19 東京 曇・良 芝1600m (国際) (指定)

順	馬番	馬名	性	齢	斤	騎	タイム (管差)	コーナ ー通過 順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーテ
1	⑩	ジュンブロッサム	牡	5	57	戸崎圭太	1:32.1	10-10	33.1	470(+2)	7.2④	友道康夫(栗東)	115
2	⑪	ソウルラッシュ	牡	6	58	団野大成	1	7-8	33.3	512(+2)	3.2①	池江泰寿(栗東)	115
3	⑫	ロジリオン	牡	3	55	北村宏司	1 1/4	6-4	33.8	488(+14)	26.7⑨	古賀慎明(美浦)	110
4	⑦	セリフォス	牡	5	58	藤岡佑介	1	10-10	33.4	498(+4)	3.4②	中内田充正(栗東)	110
5	⑭	バルサムノート	牡	4	57	松岡正海	クビ	1-1	34.5	504(±0)	144.2⑩	高野友和(栗東)	
6	⑧	コムストックロード	牝	5	55	津村明秀	クビ	4-4	34.0	448(-14)	366.6⑩	宗像義忠(美浦)	
6	⑫	アルナシーム	牡	5	57	横山弘弘	同着	4-6	33.9	448(+8)	56.0⑪	橋口慎介(栗東)	
8	⑨	クルセイダースル	牡	4	57	横山武史	クビ	14-12	33.4	488(-2)	26.5⑤	高橋義忠(栗東)	
9	⑨	レッドモンレーヴ	牡	5	57	横山和生	1	17-17	32.6	516(+4)	6.3③	蛸名正義(美浦)	
10	④	ゴンパデカーブス	牡	3	55	松山弘平	クビ	16-15	33.0	478(+16)	10.5⑥	堀 宣行(美浦)	
11	⑫	メイショウシンタケ	牡	6	57	池添謙一	ハナ	7-8	33.9	484(+4)	228.3⑩	千田輝彦(栗東)	
12	⑥	ジェイバームス	騾	4	57	鮫島克駿	3/4	13-12	33.7	508(-4)	18.9⑧	堀 宣行(美浦)	
13	⑤	エアロノア	騾	7	57	田辺裕信	ハナ	12-12	33.8	490(+6)	129.7⑩	笹田和秀(栗東)	
14	③	ミシシッピテソーロ	牝	4	55	木幡巧也	クビ	3-2	34.6	448(+12)	179.8⑩	畠山吉宏(美浦)	
15	⑮	タイムトゥヘヴン	牡	6	57	柴田善臣	1/2	16-16	33.1	486(-6)	47.0⑩	戸田博文(美浦)	
16	⑮	バラレルヴィジョン	牡	5	57	C.ルメール	1/2	9-6	34.4	488(-4)	18.9⑦	国枝 栄(美浦)	
17	①	バストラットレオン	牡	6	57	吉田 豊	1	2-2	35.0	494(-2)	57.4⑩	矢作芳人(栗東)	

単勝⑦720円(4^{kg}) 複勝⑦220円(4^{kg}) ⑪150円(1^{kg}) ⑫480円(8^{kg}) 枠連⑥-⑦790円(2^{kg})

馬連⑩-⑫1,390円(5^{kg}) ワイド⑩-⑫540円(5^{kg}) ⑨-⑫1,990円(23^{kg}) ⑩-⑫1,200円(12^{kg})

馬単⑩-⑫3,180円(9^{kg}) 3連複⑩-⑫⑭⑮⑯7,030円(20^{kg}) 3連単⑩-⑫⑭⑮38,240円(109^{kg})



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.2 - 46.1 - 58.1 46.0 - 34.0

アラカルト

- ・戸崎圭太騎手はヤングマンパワーで制した16年に続く富士S3勝目。JRA重賞は本年6勝目、通算76勝目
- ・友道康夫調教師は富士S初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算68勝目
- ・ワールドエース産駒はJRA重賞初勝利
- ・ジュンブロッサムはマイルチャンピオンシップ(G I)に優先出走できる

ジュンブロッサム Jun Blossom

牡 黒鹿毛 2019.4.15生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・河合純二氏 栗東・友道康夫厩舎
馬名意味・冠名+花。開花する様に

ゴールドティアラUSA系 F10-a

ワールドエース 鹿毛 2009	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	マンデラGER 栗毛 2000	Acatenango
		Mandellicht
エンプレスティアラ 栗毛 2004	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy
		Blue Avenue
	ゴールドティアラUSA 栗毛 1996	Seeking the Gold
		Bright Tiara

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

木村純一 厩舎長（ノーザンファーム空港）

スピード感あふれる走りを見せていました

育成時からスピード感あふれる走りを見せていましたが、能力の高さに身体が追いつかず、馬体重の維持にも時間を要しました。成長とともに身体の使い方が上手くなり、上のクラスでも確実に終いの脚を繰り出せるようになりました。前走よりもメンバーは強くなりましたが、いいポジションでレースができていたので、直線では勝ち負けになると思っていました。

M.Takahashi



馬がマイル界の新星に名乗りをあげた。

ローシャムパークを下して未勝利戦を勝ち上がった本馬は、3歳時に重賞で3回（共同通信杯、アーリントンC、神戸新聞杯）、4着に食い込んだ実績を持つ。その後はしばらく足踏みが続いたものの、昨年9月に2勝クラスを卒業すると3勝クラスは2戦で通過。ゲートで立ち遅れた前走の関屋記念でも3着に追い込み、タイトルに手が届く力を示していた。スタートを決めたこの日は鋭い末脚を冴え渡らせ父ワールドエースに初のJRA重賞制覇をプレゼント。充実期を迎えた印象の5歳馬がマイル界の新星に名乗りをあげた。

父ワールドエース

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、豪、香17戦4勝（マイルズC_Ⅱ、きさらぎ賞_Ⅲ、若葉S_Ⅱ、皐月賞_Ⅰ2着、日本ダービー_Ⅰ4着）、16年から供用、23年用途変更

〔代表産駒〕ジュンブロッサム（本馬）、メイショウシントケ（米子S・L）、レッドヴェロシティ（青葉賞_Ⅲ3着）、シルトプレ（道営記念、ダービーグランプリ、北海優駿、鎌倉記念、コスモバレー記念、北斗盃）、オータムレッド（クローバー賞_Ⅱ）

母エンプレスティアラ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央2戦0勝。24年用途変更

レッドアーヴィング（09 驛父アドマイヤムーン）中央8戦1勝、障害11戦2勝、地方1戦0勝

サークレット（10 牡父フジキセキ）不出走

セントコロナ（11 牡父ハーツクライ）中央17戦0勝、地方9戦0勝

ボルドネス（12 驛父ハーツクライ）中央22戦3勝（石狩特別）、障害2戦0勝、地方53戦5勝

（13 牝父ネオユニヴァース）

タオヤメ（14 牝父ルーラーシップ）中央1戦0勝

レッドレグナント（15 牝父ロードカナロア）中央22戦4勝（多摩川S、道新S）

ボーツ賞、サフラン賞、アネモネS_Ⅱ2着

トーセンドロップ（16 牝父ジャスタウェイ）不出走

トライフォーリアル（17 驛父リアルインパクト）中央14戦2勝、障害9戦1勝（京都ハイジャンプJ_Ⅰ2着、東京ジャンプS_Ⅰ3着）

ジュンブロッサム 本馬（19 牝父ワールドエース）中央19戦5勝（富士S_Ⅲ、水無月S、ロードカナロアC、出雲崎特別、関屋記念_Ⅲ3着）獲得総賞金178,038,000円

イクリール（21 牝父シュヴァルグラン）中央7戦0勝 ※

※18、20、22、23（不受胎）

祖母ゴールドティアラUSA

中央7勝（プロキオンS_Ⅲ、シリウスS_Ⅲ、ユニコーンS_Ⅲ、ギャラクシーS_Ⅱ、ゆうすげS、寒梅賞、フェブラリーS_Ⅰ2着、平安S_Ⅲ3着、クイーンC_Ⅲ3着）、地方2勝（マイルチャンピオンシップ南部杯_Ⅰ、かきつばた記念_Ⅲ、かしわ記念_Ⅲ3着）、98年輸入、20年用途変更、ゴールデンハインド（万葉S_Ⅱ、札幌日経オープン_Ⅱ）の母、ステファノス（富士S_Ⅲ、大坂杯_Ⅰ2着、天皇賞（秋）_Ⅰ2着、クイーンエリザベスⅡ世C・香_Ⅰ2着、オールカマー_Ⅲ2着、鳴尾記念_Ⅲ2着、天皇賞（秋）_Ⅰ3着、種牡馬）、フィニフティ（クイーンC_Ⅲ2着）の祖母

上昇気流に乗った5歳馬が重賞初制覇

ここからの始動を予定していたジャンタルマンタルがレースの前週に熱発して回避。マイルチャンピオンシップの前哨戦・富士Sは、仕切り直しを余儀なくされた3歳マイル王にかわり、2年前の2、1着馬ソウルラッシュとセリフオスが頭ひとつ抜けた支持を集め、昨年の2着馬レッドモンレーヴが2頭に続く勢力図が描かれた。とはいえ、勝利を飾ったのは4番人気のジュンブロッサム。上昇気流に乗った5歳馬が実績上位の面々を一刀両断にして、重賞初制覇を果たした。

出たバルサムノートは前半に速いラップを刻み、引き締まった流れをつくる。ソウルラッシュは馬群の中団を進み、セリフオスが掛かり気味にその背後を追走。ジュンブロッサムの戸崎圭太騎手は五分のスタートを決め、セリフオスの外につけた一方、ゲートで立ち遅れたレッドモンレーヴは最後方で直線勝負に構えた。

中盤にペースを緩めたバルサムノートは直線に向いてからもしごとく抵抗。しかし残り200m地点を過ぎてからは馬場の真ん中を追い込んできた差し馬の決め手が優り、最後はソウルラッシュとジュンブロッサムの争いに。十分に脚が溜まっていたジュンブロッサムはとりわけ鋭い末脚を発揮。懸命に食い下がる内のソウルラッシュを突き放してゴールに飛び込んだ。

ローシャムパークを下して未勝利戦を勝ち上がった本馬は、3歳時に重賞で3回（共同通信杯、アーリントンC、神戸新聞杯）、4着に食い込んだ実績を持つ。その後はしばらく足踏みが続いたものの、昨年9月に2勝クラスを卒業すると3勝クラスは2戦で通過。ゲートで立ち遅れた前走の関屋記念でも3着に追い込み、タイトルに手が届く力を示していた。スタートを決めたこの日は鋭い末脚を冴え渡らせ父ワールドエースに初のJRA重賞制覇をプレゼント。充実期を迎えた印象の5歳馬がマイル界の新星に名乗りをあげた。